

昭和 59 年 度

津軽海域総合開発事業調査

(藻場造成事業調査)

(要 約)

能登谷正浩

青森県の日本海沿岸海域においてサザエ、ウニ、アワビ等の磯根有用動物の棲息場および餌料としてツルアラメを主体として海中林造成のための調査を行っているが、59年度は前年度に引きつづき、岩崎においてツルアラメ海中林モデル礁調査を進めるとともに、小泊においてはマコンブ母藻産地別ロープ養成試験、更に深浦町田野沢においては藻類の最大および最小現存量調査を実施したので以下にその要約を記す。なお、詳細は「昭和59年度津軽海域総合開発事業調査報告書」(青森県)に報告済みである。

1 ツルアラメモデル礁調査

前年度末の3月においてツルアラメ人工種苗は葉長5~6cmに生長していたが、本年度12月での調査では養成ツルアラメ藻体は全く認められなかった。また、この調査時に礁内に棲息するウニ類について観察した結果、3月および12月はそれぞれ9個/ m^2 、248g/ m^2 、6.2個/ m^2 、158g/ m^2 と多く、養成藻体はこれらのウニに食害されたものと推測された。

2 マコンブ養成試験

マコンブ種苗(袋内、易国間、尻屋、八戸)を増殖センター内で作り、小泊村、七ツ石北側に2ヶ統のれん式養成施設に結着した。その結果、沖出し2ヶ月後、藻体は葉長1~10cm(平均3.41cm)で水深の浅いものほど成長が良かった。今後、継続して観察を行う予定である。

3 藻類現存量調査

深浦町田野沢地先において6月および11月に水深5m、10m、15m、20mの各点において、藻類の現存量について調査を行った。その結果、生育する種数および量は浅所ほど多い傾向が認められた。中でもツルアラメは最も多く、水深5mでは6月には約6kg/ m^2 、11月では約3kg/ m^2 であり、水深15m、20mのそれに比べ2~3倍の生育量であった。また、ワカメ、ケウルシグサについては水深5~10、10~15mで比較的多く0.6~1kg/ m^2 が認められ、総現存量は5mでは6月は約12kg/ m^2 、11月は約8kg/ m^2 、10mではそれぞれ約9kg/ m^2 、4kg/ m^2 であった。また、ツルアラメ群落は浅所ほど生育密度が高いことや、葉体の年令は6令まで認められ若令葉体ほど葉体数が多く、栄養繁殖による安定した群落の維持、拡大が行なわれていることが推測された。